



特別
イ 4
3163
64



詠歌之大概



情以新為先

未人未詠之心

詞以舊可用

詞不可出之代

集先達之所用新古今古人奇同可用之

風解可效堪能先達之

秀奇

不論古今遠近凡且奇可效其神

近代之人所詠出之心

詞雖一句謹可除弃之

七八十年以來人所詠出之詞皆不可取用之

於古人歌者多以其同詞詠之已為流

例但取古奇詠妙奇事入句之中及

之句者頗過分其氣二句之上三句字

免之猶棄之以同輩詠古并詞頗在念
欽以花詠花以日季歌詠憲雜并以志雜
奇詠曰季并如此之時至取古并之難欽
あふまの山郭云 みぐり野のくらし山
久し月のくらし ほろくもおむ育
玉ほこの通行人

如此事全雖何度不悵之

余はらも春いよまの月あゝるまおひ

候らる来乃の風 かなくせあしは面

如此之類雖二句更不可詠之

常觀念古歌之景氣可深心殊可見

習者古今伊勢物語後撰拾遺之十六人

集之内殊上平歌可懸心人替貫之忠岑
伊勢小町あり歌

雖非和并之先達時節之景守世間之感表

為知物由白氏文集第一第一之帙常可

握概深通和并
之心

和守也師近只以爲奇而爲師深心於古
風習詞於先達者誰人不誅之哉
秀秋之解大略

隨毫末之覺悟書連之古今相交
狼籍無極歎

春をいといゆるものやみづ野の
山よりみえと胡いとも
君のゆえ人春は好まといふ業を

わづらうとも雷を物色は
梅の春よさうにあらはるる
と福白妙もあゝ雷そもあ
梅花う花とみえは久し
あまらる雷のふして多
人のいふも
花をむじり
はくは

山のこぼれをみせしむる
まじしるの大文字にふむは
はくしるしるまじしるは
山さくはまじしる久しる
山あまみゆる流しる
横さくは山さく志をの毛を
さくしる日しあぬらるる
をくしる山のまじしる成まじる

山さくまじしる
ふしるふらまの山袖まじしる
くしるさくしる山のまじしる
横さく雨さくまじしる
ぬまじしる花乃陰さく
祀の色さくしる
わさくまじしる物さくしる
まじしる野のみさくしる

みづうみよはら夏乃多しは
輝らそせいしあは福のたは福わ
あは夏ののちの秋もそそ
いもじくそそけあはあはあは
人うみそ福秋ちよよあはあ
輝らそぬそそそそそそそそ
あはあはあはあはあはあはあ
あはあはあはあはあはあはあ

輝のそそらぬみあは野乃系
月そそらそそそそそそそそ
わつからららの秋もあはあ
あはあはあはあはあはあは
よかそそそそそそそそそそ
あはあはあはあはあはあは
あはあはあはあはあはあは
あはあはあはあはあはあは
あはあはあはあはあはあは

物おふ人かちやもびより南

ふつじうの礎のそよよ暮夕は火と

物にも袖乃霞うらうらと

もつらむらうらうらと

妹の縁やめうらうらと

夕にたじ田たじうの葉と

あうらうらと秋のそらも

はむらうらと秋のそらも

あまうらうらと秋のそらも

う積あうらうらと秋のそらも

いあうらうらと秋のそらも

吹うらうらと秋のそらも

じうらうらと秋のそらも

あうらうらと秋のそらも

わうらうらと秋のそらも

あうらうらと秋のそらも

下巻の~~~~秋ちるま〜は
秋も此吹上よき〜~~~~菊ら
花のあ〜ぬ浪りよ~~~~
心あそよあ〜ちら〜はあ
そはあも〜ちら〜菊らと
あ〜あ〜はあも〜~~~~
下巻の~~~~色は~~~~
きつ〜河あ葉とち〜**神**の

と~~~~
輝らまぬりみら〜あ〜あ
道少〜あ〜あ〜人〜
ら〜あ〜**神**代と〜**き**つ〜河
か〜く〜あ〜あ〜あ〜
山河の~~~~
あ〜あ〜あ〜あ〜あ〜
心〜あ〜あ〜あ〜あ〜

ゆみらぬおらひ山行く一乃風
ゆみらぬわらひあひ移すいささ
たのくはゆれあら乃神秋
秋はあとのほちち一ささ
いささのそしげよ雲あつと積ぬ
冬は乃柱のらら葉はあつらふ
むらつら月れ秋ゆらちか
君に次ららわのあつらひのよ

みらとあふまはちかおあふ
かうまの袖乃にほしもじすけ
とまて福ぬ葉れ草つらう
わそあひは葉芽あはあ
あはああちあひささ
あはああちあひささ
あはああちあひささ
あはああちあひささ
あはああちあひささ
あはああちあひささ

あまのついでにわらぬおと
瀬とらわと思ふもせうをい河乃
とれてもすゑよあまのこゝ思
おのの河をいふかゝる水乃あまの
うぬかゝ人よあまのこゝ思
かま若のこゝ河乃命とらわらぬ
いふもぬ人いふかゝるかゝる
かゝる系いふかゝるかゝるかゝる

あまのついでにわらぬおと
思草奈すゑよあまのこゝ思
をいふかゝるかゝるかゝる
あまのついでにわらぬおと
百歳とらわと思ふもせうをい河乃
晨明のついでにわらぬおと
あまのついでにわらぬおと
若とあまのついでにわらぬおと

しんぞく松山
おけり月物
かあらふ